

ミニ講座 第1弾

今回からシリーズでミニ講座を掲載いたします。

第1弾としては「ケースカンファレンス(相談支援)の方法」について述べます。みなさんが、相談支援を受ける時は、インテーク(最初の面談)に始まりアセスメント、支援計画作成、モニタリングへと展開されます。その過程について解説します。

1. 相談支援のプロセス

(1)インテーク

1)インテークの目的

相談援助の入り口として重要なのがインテークです。インテークというと相談を受け付けフェイスシートに基本項目や相談の内容を聞き取り記入することのようにとらえがちですが、実はインテークで今後のアセスメントに必要な情報をどのくらい入手できるかが重要です。インテーカー(相談を担当する者)には、そのスキルが求められますが、相談するみなさんにも、素直な気持ちで、お話頂くことが重要です。

インテークの主たる目的は①みなさんが抱えている問題の全体像を把握すること②みなさんとの信頼関係の構築です。

インテークとは、みなさんがどういう相談内容を抱えていて、その相談の背景にある問題は何かということを明らかにするために行われます。そのため、インテークでは、インテーカーが丁寧に話を聴き、記録に残すことが基本になります。そして、その面談内容に基づいてみなさんに対する以後の支援方針を立てることになります。時には、いろいろ質問されて面倒だと思うことがあるかもしれませんが、話せる範囲で結構ですので、お応えいただき、自分の気持ちをお話ください。

支援方針は、みなさんが抱えている問題の契機や成因について仮説を立て、それらに基づき今後どのような支援者が関わり、誰がどうアプローチしていくかを支援者同士が話し合います。ですから、インテーク面談内容は、みなさんに対して、支援者同士が共通理解をもって以後の支援を円滑に進めていくために最も重要な情報となります。

2) インテークのポイント

ア 情報は量より質

みなさんの抱える問題の種類や状況により、必要となる情報は違います。「あれも聞きたい」「これも知りたい」ではなく、「問題を明らかにし、その人ならではの解決方法を導き出す」ために、「必要な情報は何か？」を考え、「必要最小限」の情報を、意図的に収集します。

例えば、初回の相談で就労歴をお聴きしたところ、何度も転職を繰り返していることが分かり、転職理由は職場での人間関係がうまくいかないのが原因であったということまで分かってきました。そこで、小学校中学校時代のことをお聴きすると、軽度発達障害の可能性が浮上してくるということなどです。

イ 質の高い情報の収集

質の高い情報とは、事実に基づいた「客観性」と、ご本人・ご家族の口から直接語られたみなさん独自の「主観性」を保持している情報です。事実に基づいた客観性とは、身体的側面、心理精神的側面、環境的側面から根拠(エビデンス)に基づいた情報を収集することです。特に身体的側面や心理精神的側面は、みなさんが積極的に語り難い場合もあります。そんな場合でも、インテーカーが、みなさんの気持ちを汲んで、会話を進めますので、安心してお話しください。

合わせて、みなさんやご家族の語る物語を聞くことにより、みなさん自身の価値観や、ご家族の思いなど客観的事実では分からないことが分かってきます。そのことが、より良い支援計画に繋がってきます。

続く